

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね 1階		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者さんと職員が仲良く、素敵だね笑顔が良いねを実践して生活している。 ・職員同士のチームワークも良く雰囲気の良いホーム。 ・家族とも信頼関係を築き、相談などもしあえている。 ・入居者にあった支援を行っている。 ・状況や要望に応じた支援、過ごしやすい環境を作っている。 ・和やかで柔らかい暖かい雰囲気のあるホーム。 ・ほほえみ祭りや花火大会等のイベントで、入居者さんに楽しんでもらえるような催しを行っている。 ・毎月すてきだね通信と個人通信を発行している。 ・資格取得にかかる費用の助成。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>環状線に程近く、閑静な住宅街に開設されて交通の利便性に優れた鉄筋コンクリート造り2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームで職員の離職は少なく、余裕を持った職員の配置でチームワークも良く安定したケアサービスを提供しているとともに花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントを開催して地域の人々との交流の機会を設けたり、散歩や外気浴、お花見やドライブ、花フェスタ見物など戸外に出かけたり、ミニ花火大会やクリスマス会&家族交流会の開催、大正琴の演奏等のボランティアの慰問を受けるなど楽しみごとや気分転換等の支援をしている。</p> <p>また、毎月、日常の生活の様子や健康状態等を個々の家族に情報提供しているとともに「すてきだね通信」を発行して、事業所の取り組みや行事の案内、一口メモで認知症に関する理解や啓発等を継続的に掲載して、認知症の人の理解や支援の方法を、家族や地域の人々に向けて発信している。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、玄関に掲示、パンフレットにも記載している。 新人研修の際に説明し、共有に向けての取り組みをおこなっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り、新人研修やカンファレンス等で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、運営推進会議の協力も得られるようになった。ホーム行事の参加呼びかけも、継続して行っている。	町内会に加入して、花植えや清掃等の町内行事への参加や花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントを開催して地域の人々との交流の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、いつでも相談してくださいと発信しているが、地域の人からは中々声がかからないのが現状。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期開催することができ、ホームの紹介や取り組みを伝えることができるようになった。もう少し地域の方の意見が聞き出せるようになればもっとサービスの向上につながれると思う。	運営推進会議を定期的に開催して、日常生活の様子や利用状況等の具体的な内容について話し合い、そこの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、介護高齢課、指導監査課と連絡を取っている。地域包括センターとは、密に連絡を取り協力関係は築けている。	日常業務を通じて市担当者、包括支援センターと指導や助言等を得ながら情報交換して協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はしていない。 夜間は、防犯の為に施錠をしている。 非常口は、死角になるため、昼夜問わずに施錠をさせていただいているが、鍵をそばに置き、すぐに開錠できるようにしている。 身体拘束は行わないように対応を工夫している。	外部研修会参加や内部研修会を開催して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的には行っていないが、必要に応じて、資料を確認し、見直しを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が積極的に外部の研修に参加し、職員に周知するように考えているが、中々時間を作ることができないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には十分に説明はしていると思うが、入居時には、どのような不安や疑問が起こるか分からないと思うので、随時疑問に思った事を聞いていただくように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見を聞いたり、玄関に意見箱を設置し、意見を聞ける体制に努めている。	毎月、日常の生活の様子や健康状態等を個々の家族への情報提供や「すてきだね通信」を発行して、認知症に関する理解や啓発等を掲載している。また、家族や来訪者等が職員に意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、なんでも相談してもらえるような関係を築いている。職員からの提案には、なるべく応えられるように努めている。	カンファレンスやモニタリング等を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、職員個々の勤務状況の報告をうけている。なかなか給与に反映することは難しいが、その分、希望の休日や賞与に反映できるように努めている。資格取得に関する費用の一部助成も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、個々の知識を高めてもらうようにしている。 参加できない方は、研修の資料を参照していただき、個人で学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は、包括の職員と協同し勉強会の企画委員として参加し交流をしている。 また、地域のグループホームともケアマネとして、月一回集まり、意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の開始する段階で、本人や家族と面談を行い、要望を聞き、入居後は、本人が何を求めているか、なるべく多くの情報を聞き出す声掛けをし、安心して暮らしていける関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも同様に話を聞き、良い関係を作れるように努めている。 面会に来たときには、世間話等をしなが、関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況と家族の要望を十分に見極め、必要と感じた支援を行うように心がけている。 他のサービスの利用は難しい為、職員が情報を出し合い工夫して援助をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、一緒に生活をしている気持ちを忘れずに、色々な話をしたり助け合ったりして暮らしている。良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は良好で、本人を支援していくために必要なことはその都度相談し協力しながら毎日の生活を送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者自身が徐々に出来なくなって来ている。こちらから、馴染みの関係を断ち切るようなことはしていないが、生活している上で徐々に離れてしまう事はある。今いる場所を馴染みの場所、馴染みの人になるように支援をしている。	花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントを開催して地域の人々との交流の機会を設けたり、散歩や外気浴、お花見やドライブ、花フェスタ見物など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係性を把握し、孤立しないように努めている。一人が好きの方もいるため、強制はせずに、本人に合わせた支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応している。一度退居された方も、またお願いしたいと相談があり、再度入居になった方もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望の把握に努めているが、困難な事が多い、そんな中でも、その人に合ったケアを提供できるように検討し、対応している。	家族や一人ひとりの希望や意向等を把握しながら本人本位に検討している。また、カンファレンス等で話し合い、職員間で共有できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を得て、把握に努めている。 入居後も、出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を確認し、表情や行動で、日頃の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に要望を聞き、現場スタッフが、その時に必要なケア、アイデアを出し、その人の現状にあったケアプランを作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報の共有を行っている。 職員間の情報共有には、連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の山下整形でのリハビリの活用。デイサービスの車を利用したドライブ、外出行事。調剤薬局や、福祉用具業者との連携等、必要に応じて柔軟な支援体制に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事、地域の行事への参加。 今後ボランティアの受け入れを検討。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特にかかりつけの病院がない方は、関係が出来ている内科への転院をお願いしている。継続してかかりつけ医への受診を希望される方には、受診をお願いし、日頃の様子をお手紙にして報告、必要に応じて受診の付添もやっている。	協力医療機関との連携や通院等への支援で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携も取れている。情報を共有し、日常の些細な事でも報告している。 必要に応じて、受診の指示や対応を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、適宜様子を見に行き、家族や看護師から情報を得て、早期退院に向けて支援している。 病院関係者にも、なるべく早く退院できるようにお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には、家族の思いを最優先に考え、看取りの希望があれば、医師、看護師と相談し、看取りの支援を行う体制は出来ている。	事業所は、ターミナルケアを実践している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が救急救命講習を受講している。 初期の対応については、日々の業務の中で、学んでいる。対応に不安を感じた時は、管理者への報告体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。 日中帯、夜勤帯の想定で訓練を実施している。	昼夜を想定した年2回の火災避難訓練や救急救命訓練も実施している。また、安全に配慮した鉄筋コンクリート造りで、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等設備を完備し、定期点検も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけて対応している。 本人の意思を尊重した声掛けを常に意識している。	日常業務や内部研修会を開催して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉使用がないよう対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞き入れられる希望は、なるべく叶えてあげられるように支援している。現実的でない事が多く、難しいのが現状。また、思いや希望を聞く努力もしているが、中々表現できない方が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活をしてもらっているが、業務の都合を優先することはある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や身だしなみは気を配るようにしている。 個人個人で、化粧水を使ったり、クリームを使ったりに介助が必要な方には、支援している。 洋服は、自分で選べない方が多い為、こちらで準備。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった準備や後片付けを一緒に行っている。 食事は、出来るだけ一緒に食べるようにしているが、介助が必要な方が多く、スタッフは後になってしまう事もある。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け、食器や茶碗洗いを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は、業者に依頼している。 水分の摂取量はチェック表を活用し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨きを行っている。介助が必要な方には、必要なケアを行い口腔内の清潔に努めている。 就寝前には、義歯を外してもらい、入れ歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用してパターンを把握し、必要な方には、声掛けを行いなるべくトイレでの排泄を促している。 トイレに誘導が出来ない方は、その人に合ったものを使用し介助している。	排泄チェック表で一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずは、自然に排便があるように、牛乳や乳製品等を利用し、身体を動かして予防に努めている。 それでも、便秘になってしまう方は、Drに相談個々に合わせた下剤を使用し、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	職員の都合に合わせた時間での入浴になっている。週2回の入浴で、その人に合わせた対応を心がけている。その時の気分で入りたくない方は、無理をせずに、日にちをずらし対応している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回の入浴を目安に個々に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほぼ皆さんロビーで過ごしている。だいたい自分の場所が決まっていて、くつろいでいる。 必要に応じて、居室で横になってもらう事もある。 夜間は、自室で寝たくない方は、ロビーのソファで眠ってもらう時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬一覧表がファイルされている。 服薬の間違いないように、名前と日付等の確認をし、服薬介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を役割として行ってもらっている。 茶碗拭き、テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物畳み。その他にの、レクとして、カルタ、百人一首、歌、紙芝居等、皆さんと笑いながら楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、玄関前でお茶をしたりしている。 ご家族にも参加していただき、ほほえみ祭り、ミニ花火大会を行っている。 今年は花フェスタの見学にも行くことが出来た。	身体機能の低下がみられ外出する希望が減ってきているが、花火大会や「ほほえみ祭り」等のイベントを開催して地域の人々との交流の機会を設けたり、散歩や外気浴、お花見やドライブ、花フェスタ見物など戸外に出かけたり、ミニ花火大会やクリスマス会&家族交流会の開催などしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する、使う事が大切なことは理解しているが、ほぼ、お金の管理ができない為、お金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛ける事は出来るが、今入居されている方は、電話を掛けたいと訴える方がほとんど居ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度に気を付けている。 ソファや椅子を利用して居場所を作っている。 季節感が感じられるように飾り付けの工夫をしている。(お正月・節分・ひな祭り等々)	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は広く、季節ごとの飾りつけや一人になったり、談笑できるようにスペースが用意されて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々自分の好きな場所があり、ほとんど動きがないが、そんな中でトラブルがあったりすると、配置換えを行い皆さんが嫌な思いをしないように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して対応している。 状況に応じて、配置換え等も行い本人の負担にならないように工夫している。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や寝具、仏壇等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて支援している。 必要があれば介護用具を使用したり、作ったりしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム すてきだね 1階

作成日：平成28年07月06日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の機会が減ってきている。	天気の良い日には外へ出る。	体調に合わせて、外へ出る意識を持つ。短い時間の散歩。 外出行事での家族や、ボランティアの協力体制を作る。	12か月
2	13 31 34	スタッフの知識・経験が不足している。 些細な状態の変化が、重大だと気が付かない。	認知症の知識向上。 危機管理の意識向上。	認知症の基礎を学ぶ研修。 介護技術を学ぶ研修。 リスクに対する研修。	12か月
3	8	家族や知人の面会が減っている。	面会に来てもらう。	通信等を利用しての面会の呼びかけ。 面会時に、また来てくれるような声掛けの継続。	12か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね 2階		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	平成28年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901225-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員同士、仲が良く、何かあった時は助け合える職場である。 入居者さんも職員も笑顔が多い環境である。 毎月 ご家族様に個人通信を発行している。 入居者さん一人ひとりに合わせて支援を行っている。 家庭的な雰囲気笑顔で毎日を過ごせる様に心がけている。 理念に基づき笑顔が絶えない暮らし、入居者さんらしく生活が出来るように、ケアに努めている。 資格取得の推進 内部・外部研修への参加の推進 穏やかでアットホームな施設内の環境 入居者さんの出来る事を見つけ、メリハリのある生活を提供出来るようにしている。 ほほえみ祭り、花火大会、大正琴、クリスマス会など楽しめる行事の開催 入居者さんのご家族とも 良好な関係が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に掲示しているので、いつでも見る事ができ、管理者と職員は常に理念を認識し、実践に繋げるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の花壇の清掃などに参加しているが、その他の町内の行事には中々参加出来ていない。 ホームで行っているほほえみ祭りへの参加の案内は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば、いつでも話を聞ける体制が出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っている。ホームの入居者さんの状況や行事予定を報告し、話し合いによって出された意見などは、今後に生かすようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターと日頃より連絡を取り合い、相談もさせて頂きながら、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。夜間のみ防犯上施錠している。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学んだ事を職員一同で共有し、虐待等が行われる事がない様努めている。 ただ、言葉かけの部分で馴れてしまい、少々言葉が適切でない時があるので気を付ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ職員もいるが少なく、もっと学ぶ機会を増やしていけたら良いと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に説明を行っている。また、その時に聞けなかった事や解らなかった事があれば、いつでも聞き、説明できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族とコミュニケーションを取り、いつでもご家族は意見や要望を言える様な体制にしている。また、反映出来るように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員との関係を築き、意見や提案が言い易い環境を作っている。反映出来るように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境は良いが、スタッフが不足している時、希望の休みが取づらい。 年に1回の昇給はあるが、もう少しお給料が上がるともっとやるきや向上心も上がると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できる機会は増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は同業者と交流する機会があり、勉強会の中で良い刺激を受けている。相互訪問の機会があれば、他の職員の勉強にもなるし、向上にも繋がると思う。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人やご家族の話を傾聴し、本人が安心して生活して頂ける様に、信頼関係を築く様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け、安心して頂けるような関係を築く努力をしている。 スタッフ間で情報を共有し、ケアに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が何を必要としているかを見極め、スタッフ間で共有し、対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さん本人の思いを受け止め、出来る事は一緒に行い安心して生活を送って頂けるような関係が築けている。学ぶ事も多いので感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時に記録を見て頂いたり、状態をお話させて頂き、コミュニケーションを摂りながら、共にご本人を支えて行く関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪は少ないが、電話やお手紙などご本人の希望があれば支援している。外出についてもご本人から希望があればご家族と相談にて協力して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんの様子に気を配りながら見守りをしたり時にはスタッフが間に入り声を掛けることで、孤立する事なく、良い関係が築けていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情があつて他の施設に移られた方や病院に入院された方の訪問はしている。相談にも対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアからご本人の思いを聞いたり、汲み取ったりして、スタッフ間で共有し個々に合わせた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や暮らし方の情報を集め、入居後は出来るだけ関わりを多く持ちご本人やご家族より情報を集め、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わることで、様子観察をし、変化があればスタッフ間で申し送りをして個々の状態を把握し、生活リハビリとしてご本人の出来る事はやって頂き、個人記録につけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員がモニタリングやアセスメントを行い、ご本人の思い、ご家族の意見なども取り入れ、ケアマネがまとめ、ご本人に添った介護計画を作成している。必要に応じてミーティングもやっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんの日々の様子や気づき、変化やケアの実践など個人記録に記入し、情報を共有している。ご家族からの要望やスタッフの意見、気づき等は連絡ノートに記入し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時に合わせた支援やサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合った地域資源の把握に努め、支援出来れば良いと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携が出来ており、いつでも相談する事が出来、対応して下さる良い関係が築けている。また、ご本人やご家族の希望する病院に受診する事も出来、日頃の様子を手紙にて報告させて頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる点や心配な事もいつでも相談する事が出来、その都度対応や処置、受診の指示をうけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、定期的に面会に行き、ご家族からも様子や状態を聞いて、スタッフと共有している。退院についても、ソーシャルワーカーさんを通じたり、直接主治医の先生に尋ねる事が出来る様な関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の思いがあれば、ターミナルケアを行っている。ご家族、医師、看護師、事業所が連携を組み、事業所が出来ることを十分に説明し、方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会などを行っているが、もっと定期的に開催されると良いと思う。まだまだ、実践力を身に付けた方が良いと思う。早めに管理者に連絡する体制をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。日中だけでなく、夜間も想定して訓練を行っていて、地域住民の方に協力をお願いしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係ができ、親しくなり過ぎて、言葉が適切でない時がある。個々の誇りやプライバシーに配慮が足りない時もあるので、全てにおいて対応を考えて心がけて行くよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞き、自己決定できるように支援している。自己決定が出来ない場合でも選択しを2択にしたり、思いを出来るだけ汲み取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースで日々過ごして頂いているが、職員の都合にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんに合わせた食事の提供(献立の内容・好みの物)をしている。職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。片づけも入居者さんに合わせ一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分量のチェックをして記録に残している。食事の摂れない方には、好みの物や高カロリー食の提供をしている。水分の摂れない方には、飲みやすい工夫をする等、個々に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄の声掛けを行っている。必要に応じてうがい薬やマウスウォッシュを使用しているが磨き残しやうがいなど不十分な所もある。就前には入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレのチェック表を活用し、個々に合わせた支援を行っている。時間の間隔が開いている時はさりげなく声掛けをしたり、リハビリパンツやパットを使用している方にも出来るだけトイレ誘導を行う様支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やオリゴ糖を使用したり、適度に身体を動かすようにしているも、現実には便秘の方が多く、医師に相談させて頂き下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日や時間は職員の都合になっている。ただ、入りたくない希望があれば無理に勧めず、曜日の変更など行い入居者さんに沿って支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの状態に合わせて、居室やソファで休んで頂いている。就寝前にはホットミルクを提供し安眠して頂けるように支援している。状態に応じて眠剤を服用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についての説明書はファイルされ、何時でも確認する事が出来るようになっている。薬の変更があれば申し送りをして、様子観察し、記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた支援を行っている。(食器拭き、カーテン閉めなど) 午前と午後1レクの時間を設け、カルタ・百人一首、天気の良い日には散歩等で、楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに沿っての支援は出来ないが、ご家族の協力を頂いて外出されている方もいる。ホームでも散歩やお花見に行けるように支援している。事情があり出かけられない方もご家族と楽しめる様にほほえみ祭り、花火大会、クリスマス会など行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は少ない。混乱やトラブルにならない様にホームでお預かりしている方もいる。何時でも希望があればお渡し出来、買い物にも出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、何時でも電話をして頂く支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは明るく、ゆったりとしていて、開放感があると思う。夏場はクーラーを使用したり、乾燥の時期は加湿器を使用したりと、入居さんが居心地良く過ごして頂けるように工夫をしている。 季節感を取り入れた模様替えをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓、個々のお部屋など入居さんは自由に行き来されている。ソファは座る場所が自然に決まっています、心地よい場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、馴染みの使い慣れた家具や品物を配置して、個々に合った居心地の良いお部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、車いすでも歩行でも安心して動けるように工夫している。 居室にも名前を掲示したり、トイレの場所も分かりやすく工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名グループホーム すてきだね 2階

作成日：平成 28年 07月 06日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12 18	スタッフ不足の為、業務やケアが慌ただしくなってしまう事がある。	落ち着き、一呼吸置き対応する。 笑顔で接する。	業務を優先しない。 入居者さんを第一に優先する。 チームワークを大切にする。	12か月
2	29	地域との交流が少ない。地域資源の活用が出来ていない。	地域との交流を増やす。	どのような交流の場が持てるか、話を聞き、対応を考える。 参加できる事がないか、調べる。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。